

和歌山県介護生産性向上総合相談センター
令和7年度 介護生産性向上オンラインセミナー

介護現場における生産性向上の考え方・進め方

介護テクノロジー導入活用の手順と取組例

2025年7月28日

株式会社NTTデータ経営研究所
介護・福祉インプリメンテーション グループ
グループ長 足立 圭司



■ 足立 圭司（あだち けいじ）

- 1982.1.31生まれ
- B型
- 大阪府柏原市出身

■ 経 歴

➤ TEIJIN（2005-2015）

- 帝人在宅医療株式会社に配属され、在宅医療機器の営業としてキャリアをスタート
- その後本社営業推進部に異動し、人工呼吸器の企画、開発、マーケティング戦略等に携わる

➤ HONDA（2015-2017）

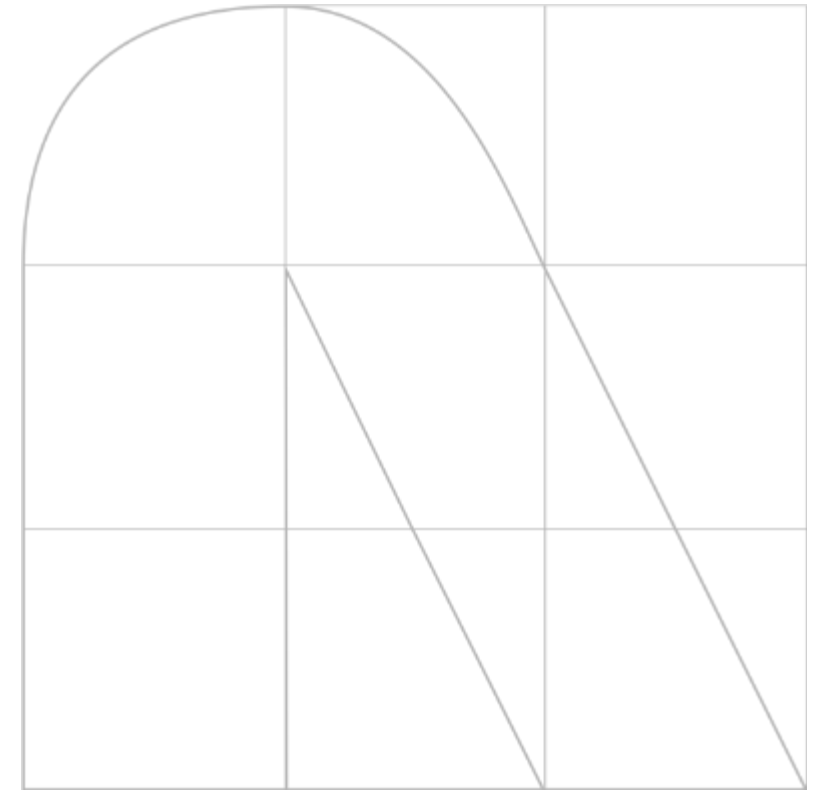
- 国内4輪販売店を対象としたハンズオン型のコンサルティング会社に入社
- 限界市場におけるエリアマーケティング、中小企業経営を学ぶ

➤ NTT-DATA（2017-）

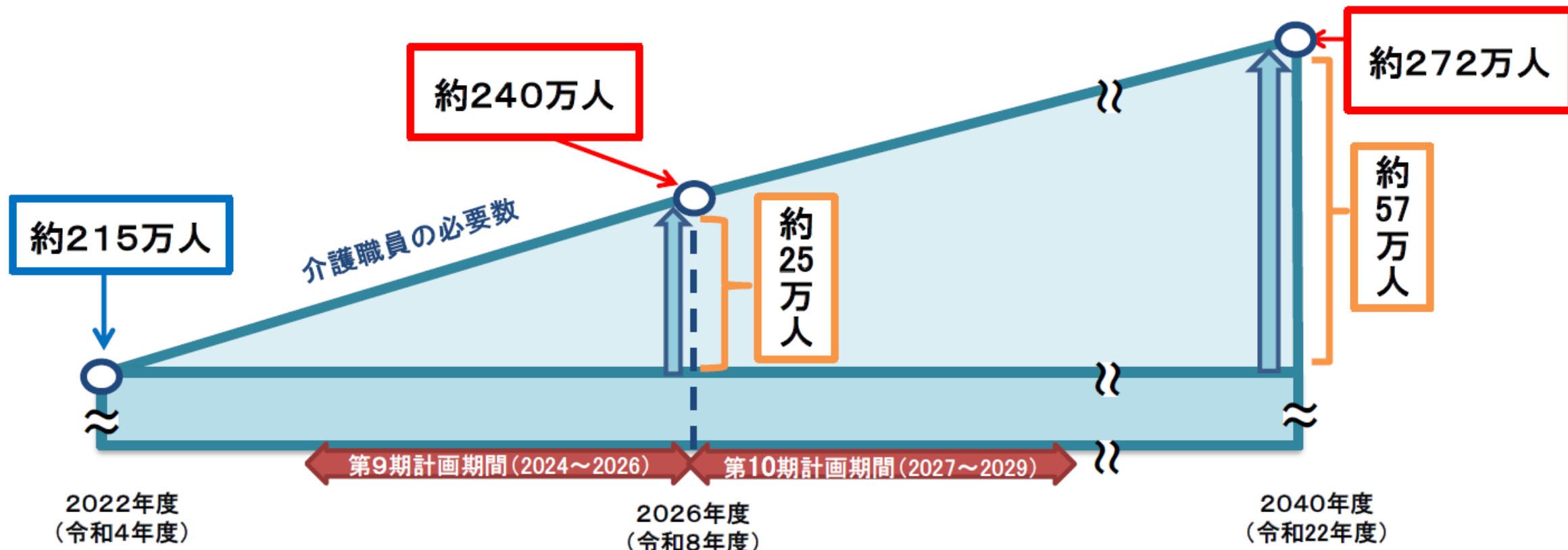
- 官公庁をクライアントとし、主に介護領域における調査研究事業や政策 提言をはじめ、介護ロボット・ICT等の社会実装および開発促進を目的とした大規模事業のPLを務める
- 官公庁における実績を活かし民間企業（製薬・医療機器メーカー等）に対する新規事業立ち上げ支援PJ等に関する豊富な実績も有する
- 2020年にHealthCare Implementation Group（現 介護テクノロジー・生産性向上グループ）を立ち上げ、現在はグループ長として組織を拡大中

01

生産性向上関連政策の動向



介護現場の深刻な人手不足



注1) 2022年度(令和4年度)の介護職員数約215万人は、「令和4年介護サービス施設・事業所調査」による。

注2) 介護職員の必要数(約240万人・272万人)については、足下の介護職員数を約215万人として、市町村により第9期介護保険事業計画に位置付けられたサービス見込み量(総合事業を含む)等に基づく都道府県による推計値を集計したものの。

注3) 介護職員の必要数は、介護保険給付の対象となる介護サービス事業所、介護保険施設に従事する介護職員の必要数に、介護予防・日常生活支援総合事業のうち従前の介護予防訪問介護等に相当するサービスに従事する介護職員の必要数を加えたものの。

(出典) 厚生労働省ホームページ

総合的な介護人材確保対策（主な取組）

<p>介護職員の 処遇改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ リーダー級の介護職員について他産業と遜色ない賃金水準を目指し、総額2000億円(年)を活用し、経験・技能のある介護職員に重点化した更なる処遇改善を2019年10月より実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護職員について、収入を3%程度(月額9,000円)引き上げるための措置を、2022年2月から実施 ※ 令和3年度介護報酬改定では、介護職員の人材確保・処遇改善等にも配慮し、改定率を+0.70%とするとともに、更なる処遇改善について、介護職員間の配分ルールの柔軟化を実施。
<p>多様な人材 の確保・育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護福祉士修学資金貸付、再就職準備金貸付による支援 ○ 中高年齢者等の介護未経験者に対する入門的研修の実施から、研修受講後の体験支援、マッチングまでを一体的に支援 ○ ボランティアポイントを活用した介護分野での就労的活動の推進 ○ 多様な人材層の参入促進、介護助手等の普及促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他業種からの参入促進のため、キャリアコンサルティングや、介護・障害福祉分野の職業訓練枠の拡充のため、訓練に職場見学・職場体験を組み込むことを要件に、訓練委託費等の上乘せ、訓練修了者への返済免除付きの就職支援金の貸付を実施 ○ 福祉系高校に通う学生に対する返済免除付きの修学資金の貸付を実施 ○ 介護施設等における防災リーダーの養成
<p>離職防止 定着促進 生産性向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護ロボット・ICT等テクノロジーの活用推進 ○ 介護施設・事業所内の保育施設の設置・運営の支援 ○ キャリアアップのための研修受講負担軽減や代替職員の確保支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生産性向上ガイドラインの普及 ○ 悩み相談窓口の設置、若手職員の交流推進 ○ ウイズコロナに対応したオンライン研修の導入支援、介護助手としての就労や副業・兼業等の多様な働き方を実践するモデル事業の実施
<p>介護職 の魅力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生やその保護者、進路指導担当者等への介護の仕事の理解促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 民間事業者によるイベント、テレビ、SNSを活かした取組等を通じて全国に向けた発信を行い、介護の仕事の社会的評価の向上を図るとともに、各地域の就職相談のできる場所や活用できる支援施策等の周知を実施
<p>外国人材の受入 れ環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護福祉士を目指す留学生等の支援(介護福祉士修学資金の貸付推進、日常生活面での相談支援等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「特定技能」等外国人介護人材の受入環境整備(現地説明会等による日本の介護のPR、介護技能向上のための集合研修、介護の日本語学習支援、介護業務等の相談支援・巡回訪問の実施等) ○ 特定技能の受入見込数を踏まえ、試験の合格者見込数を拡充するとともに、試験の開催国を拡充

(出典) 厚生労働省ホームページ

生産性向上ガイドライン

施設サービス分

介護サービス事業（施設サービス分）における
生産性向上に資するガイドライン

施設・事業所向け手引き

より良い職場・サービスのために
今日からできること
（業務改善の手引き）パイロット事業令和2年度版

厚生労働省老健局

居宅サービス分

居宅サービス分

介護サービス事業における
生産性向上に資する
ガイドライン 改訂版

介護の価値向上につながる
職場の作り方

厚生労働省老健局

医療サービス分

介護サービス事業（医療系サービス分）における
生産性向上に資するガイドライン

介護サービスの
質の向上に向けた
業務改善の手引き

改訂版



（出典）厚生労働省ホームページ 介護分野における生産性向上について
<https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-seisansei.html>

介護分野における生産性向上とは

製造業等における生産性向上

生産性の代表的な定義は「**生産性とは、生産性諸要素の有効利用の度合いである**」（ヨーロッパ生産性本部）というものである。

(公益財団法人 日本生産性本部HP)

$$\text{生産性} = \frac{\text{産出 (output)}}{\text{投入 (input)}}$$

■ 物的生産性

労働生産性
(1時間あたり)

$$\frac{\text{生産量}}{\text{労働者数} \times \text{労働時間}}$$

■ 付加価値生産性

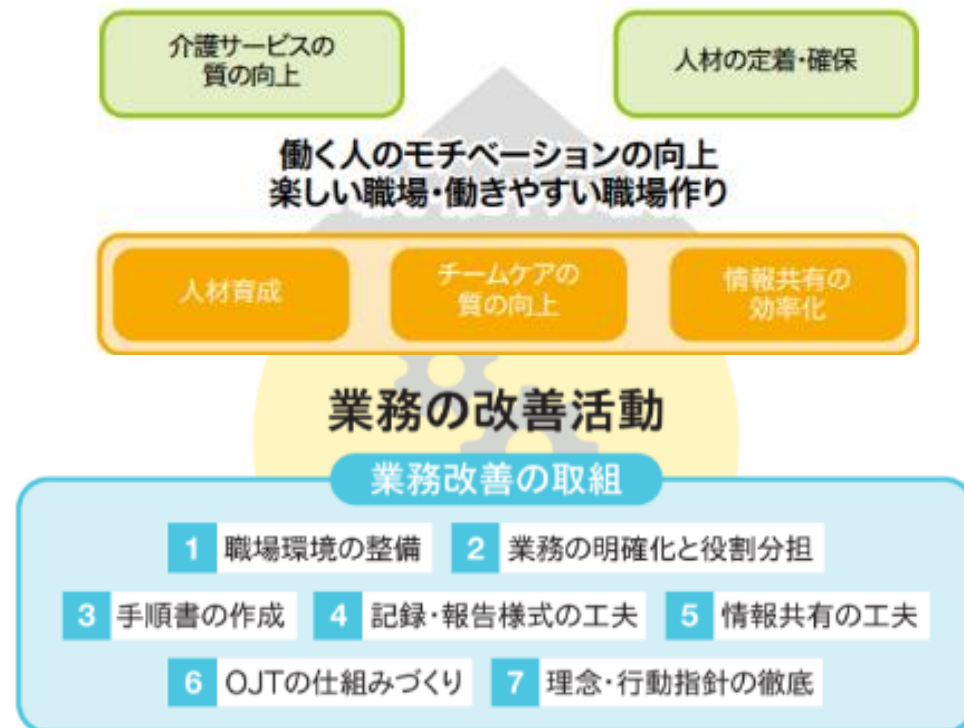
労働生産性
(1時間あたり)

$$\frac{\text{付加価値額}}{\text{労働者数} \times \text{労働時間}}$$

介護分野における生産性向上

本ガイドラインでは（中略）、介護サービスの生産性向上を「**介護の価値を高めること**」と定義しています。

(介護サービス事業における生産性向上ガイドラインより引用)



(出典) 厚生労働省ホームページ

生産性向上に向けた7つの打ち手

① 職場環境の整備

取組前



取組後



② 業務の明確化と役割分担 (1) 業務全体の流れを再構築

介護職の業務が
明確化されて
いない



業務を明確化し、
適切な役割分担を
行いケアの質を向上



② 業務の明確化と役割分担 (2) テクノロジーの活用

職員の心理的
負担が大きい



職員の心理的
負担を軽減



③ 手順書の作成

職員によって異なる
申し送り



申し送りを
標準化



④ 記録・報告様式の工夫

帳票に
何度も転記



タブレット端末や
スマートフォンによる
データ入力（音声入
力含む）とデータ共有



⑤ 情報共有の工夫

活動している
職員に対して
それぞれ指示



インカムを利用し
た
タイムリーな
情報共有



⑥ OJTの仕組みづくり

職員の教え方
に
ブレがある



教育内容と
指導方法を統一



⑦ 理念・行動指針の徹底

イレギュラーな
事態が起こると
職員が自身で
判断できない



組織の理念や行
動
指針に基づいた
自律的な行動



介護テクノロジーの重点分野 9分野16項目

<p>移乗支援</p> <p>装着 介助者のパワーアシストを行う装着型の機器</p> 	<p>移動支援</p> <p>屋外 高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器</p> 	<p>排泄支援</p> <p>排泄予測・検知 排泄を予測又は検知し、排泄タイミングの把握やトイレへの誘導を支援する機器</p> 	<p>見守り・コミュニケーション</p> <p>見守り(施設) 介護施設において使用する、各種センサー等や外部通信機能を備えた機器システム、プラットフォーム</p> 	<p>介護業務支援</p> <p>介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等への介護サービス提供に関わる業務に活用することを可能とする機器・システム</p> 
<p>非装着 介助者による移乗動作のアシストを行う非装着型の機器</p> 	<p>屋内 高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内での姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器</p> 	<p>排泄物処理 排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置の調整可能なトイレ</p> 	<p>見守り(在宅) 在宅において使用する、各種センサー等や外部通信機能を備えた機器システム、プラットフォーム</p> 	<p>機能訓練支援</p> <p>介護職等が行う身体機能や生活機能の訓練における各業務(アセスメント・計画作成・訓練実施)を支援する機器・システム</p> 
<p>入浴支援</p> <p>入浴におけるケアや動作を支援する機器</p> 	<p>装着 高齢者等の外出等をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器</p> 	<p>動作支援 ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器</p> 	<p>コミュニケーション 高齢者等のコミュニケーションを支援する機器</p> 	<p>認知症生活支援・認知症ケア支援</p> <p>認知機能が低下した高齢者等の自立した日常生活または個別ケアを支援する機器・システム</p> 
<p>食事・栄養管理支援</p> <p>高齢者等の食事・栄養管理に関する周辺業務を支援する機器・システム</p> 				

定義分見直し分野

※ () 内は項目

- 移乗支援 (装着・非装着)
- 排泄支援 (排泄予測・検知)
- 見守り・コミュニケーション (施設・在宅・コミュニケーション)
- 入浴支援
- 介護業務支援

追加3分野

- 機能訓練支援
- 認知症生活支援・認知症ケア支援
- 食事・栄養管理支援

(出典) 厚生労働省ホームページ

(出典) <https://www.amed.go.jp/content/000110861.pdf>

参考) テクノエイド協会HP

介護テクノロジーのカテゴリから探す NEW!



移乗支援 (装着)



移乗支援 (非装着)



移動支援 (屋外)



移動支援 (屋内)



移動支援 (装着)



排泄支援 (排泄物処理)



排泄支援 (排泄予測・検知)



排泄支援 (動作支援)



見守り・コミュニケーション (施設)



見守り・コミュニケーション (在宅)



見守り・コミュニケーション (コミュニケーション)



入浴支援



介護業務支援



機能訓練支援



食事・栄養管理支援



認知症生活支援・認知症ケア支援

本情報の取り扱い

当協会に設置する委員会により、厚生労働省が行う導入支援の対象となりうる製品選定を行い、該当すると判断されたものを掲載しております。(※)掲載している製品は、厚生労働省の導入支援事業にて各都道府県が実施している介護テクノロジーの導入支援を行う補助金の補助対象となる可能性があります。(掲載されていない製品の中にも補助対象となり得るものがありますので、詳細は各都道府県にお問い合わせください。)

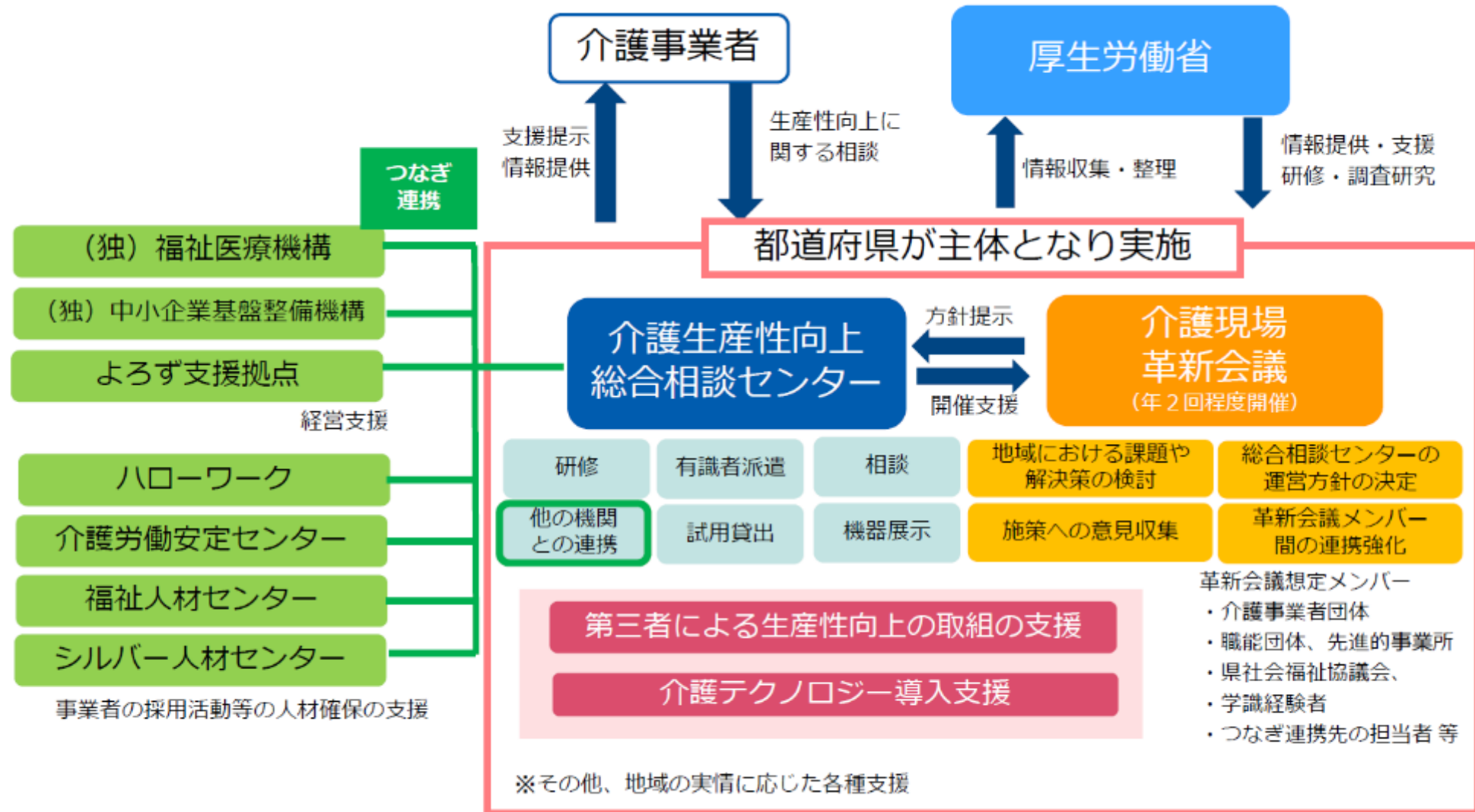
また、情報は他の福祉用具と同様、メーカーから任意に提供されたものです。従って、協会が当該製品の安全性や有効性を保証するものではありません。導入を検討する場合は、当該施設等のサービスの状況や課題等を踏まえて、慎重に検討してください。すでに製品化されている介護テクノロジーはこれ以外にもあります。

(※) 当該情報は、令和7年2月10日時点の登録情報を審議したものです。当協会では随時、継続して審議・掲載して参ります。



(出典) テクノエイド協会ホームページ

介護生産性向上総合相談センター（ワンストップ窓口）



(出典) 厚生労働省ホームページ

介護生産性向上総合相談センター設置状況 (R6 10月時点)

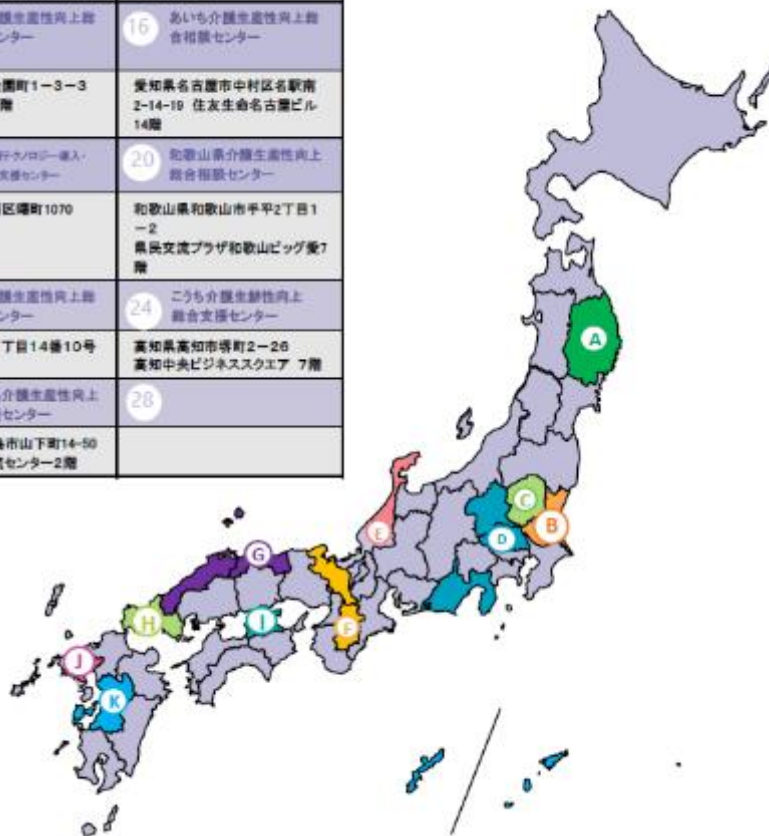
■介護生産性向上総合相談センター(設置済)

1 北海道介護ロボット普及推進センター 北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地かである27	2 あおもり介護生産性向上総合センター 青森県青森市中央3丁目20-30 農民福祉プラザ	3 宮城県介護事業所支援相談センター 宮城県長町社会福祉院 介護人材確保施設	4 あきた介護業務「カイゼン」サポートセンター 秋田市御所野下通5-1-1 秋田県中央地区シルバークエア
5 山形県介護生産性向上総合支援センター 山形県天童市一日町4丁目2-8	6 ふくしま介護生産性向上支援センター 郡山市東町字平本町27-8 ふくしま新産業創成支援センター内	7 千葉県介護事業助成アップセンター 千葉市中央区中央3-3-1 フジモト第一生命ビル4階	8 介護現場サポートセンター TOKYO 新富町駅前2丁目7番1号 新富第一生命ビルディング(中野島第一生命ビル)19階
9 神奈川県介護生産性向上総合相談センター 横浜市中区山下町23番地 目土地山下町ビル4階	10 新潟県介護現場Ox・業務改善サポートセンター 新潟市中央区米山2-4-1 基山第3ビル6階	11 とよま介護テクノロジー普及・推進センター 富山市安住町5番21号 富山県総合福祉会館(セントラルビル)2階	12 ふくい介護テクノロジー・業務改善支援センター 福井市中央1-3-1 加藤ビル6階
13 山梨県介護福祉総合支援センター 山梨県甲府市北新1-2-12 山梨県福祉プラザ1階	14 長野県介護・障がい福祉生産性向上総合相談センター 長野県長野市南町1082 ND南町ビル5階	15 岐阜県介護生産性向上総合相談センター 岐阜県岐阜市会館町1-3-3 クリスタルビル2階	16 あいち介護生産性向上総合相談センター 愛知県名古屋市中村区名駅南2-14-19 住友生命名古屋ビル14階
17 みえ介護生産性向上支援センター 津市栄町3-243 関屋第三ビル506	18 大原府介護生産性向上支援センター 大原府大原市住之江区南港北2-1-10 ATOビルITM棟11階	19 ひょうご介護テクノロジー導入・推進性向上支援センター 兵庫県神戸市西区曙町1070	20 和歌山県介護生産性向上総合相談センター 和歌山県和歌山市平平2丁目1-2 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛7階
21 岡山県介護生産性向上総合相談センター 岡山市北区南町1-1-1 住友生命岡山ビル10階	22 介護現場サポートセンター ひろしま 広島市南区北池田本町12-2 (広島県社会福祉会館内)	23 茨城県介護生産性向上総合相談センター 松山市一番町1丁目14番10号 井平ビル4階	24 こうち介護生産性向上総合支援センター 富知県高知市幸町2-26 高知中央ビジネススクエア 7階
25 ながさき介護現場サポートセンター 長崎県長崎市元船町9-18 長崎ビルPORT2階	26 大分県介護Oxサポートセンター 大分県大分市明野東3丁目4番1号	27 鹿児島県介護生産性向上総合相談センター 鹿児島県鹿児島市山下町14-50 カイクラス交流センター2階	28

■(令和6年度中に開設予定:5カ所)

番号	都道府県名	開設予定
1	滋賀県	秋頃
2	徳島県	秋頃
3	福岡県	秋頃
4	高知県	秋頃

※介護生産性向上総合相談センターに関し、令和6年度中に開設予定がない都道府県についても、令和7年度以降に設置予定



■介護ロボット・ICT相談窓口 (11カ所)

A 公益財団法人いきいき岩手支援財団 岩手県高砂市総合支援センター 岩手県盛岡市本町通3丁目10-1 岩手県福祉総合相談センター3階	B 公益財団法人介護労働安定センター茨城支部 介護ロボット・ICT相談窓口 茨城県水戸市南町3丁目4番10号 水戸庁センタービル
C とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター 栃木県宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ1F	D 社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
E 公益財団法人介護労働安定センター福井支部 介護ロボット・ICT相談窓口 福井県福井市中央1丁目3-1 加藤ビル6階	F 公益財団法人介護労働安定センター奈良支部 介護ロボット・ICT相談窓口 奈良県奈良市大宮町4-266-1 三和大宮ビル2階
G 公益財団法人介護労働安定センター鳥取支部 介護ロボット・ICT相談窓口 鳥取県鳥取市原町116 田中ビル2号館2階	H 公益財団法人介護労働安定センター山口支部 介護ロボット・ICT相談窓口 山口県山口市穂積町1-2 リバーサイドマンション山陽Ⅱ2F
I 公益財団法人介護労働安定センター香川支部 介護ロボット・ICT相談窓口 香川県高松市寿町1丁目3番2号 日達高松ビル6階	J 公益財団法人介護労働安定センター佐賀支部 介護ロボット・ICT相談窓口 佐賀県佐賀市駅前本町6-4 佐賀中央第一生命ビル8F
K 公益財団法人介護労働安定センター熊本支部 介護ロボット・ICT相談窓口 熊本県熊本市中央区花畑町1-1 大樹生命熊本ビル2F	※国の事業で設置された窓口(都道府県の準備ができ次第、介護生産性向上総合相談センターへ移行)

取組の普及に向けたロードマップ

生産性向上1.0：黎明期

介護分野における「生産性向上」の考え方・進め方の構築

生産性向上2.0：準備期

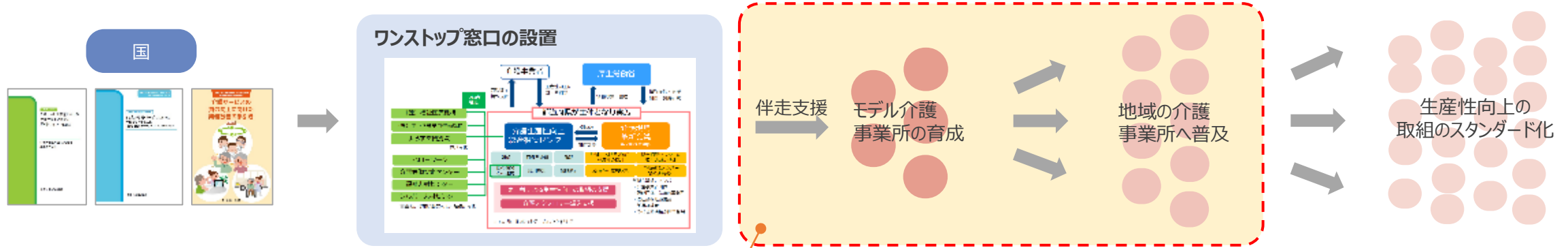
地域における、介護現場の生産性向上の取組を支援・促進するための仕組み作り（支援体制の整備）

生産性向上3.0：普及期

地域の事業所における生産性向上に資する試行的な取組とその支援を通じたモデル事業所の育成

生産性向上4.0：拡大期

介護分野における生産性向上に向けた取組の全国的な普及



生産性向上3.0：普及期に求められる取組

ワンストップ窓口

相談対応

体験展示

試用貸出

伴走型研修プログラム

オリエンテーション

- 第1回：課題の見える化
- 第2回：実行計画の立案
- 第3回：中間振り返り
- 第4回：成果報告会
- 成果報告会（一般公開）

+

コンサルタント
(伴走支援者)
によるサポート

ワンストップ
窓口

支援

モデル
介護施設
・事業所

自治体

事業委託

支援

モデル介護施設・事業所

- Level 1：当該年度の自組織の改善活動ができる
- Level 2：自組織の改善活動を継続できる
- Level 3：自組織の改善活動を事例発表できる

Level 4：他組織の改善活動を支援できる職員がいる

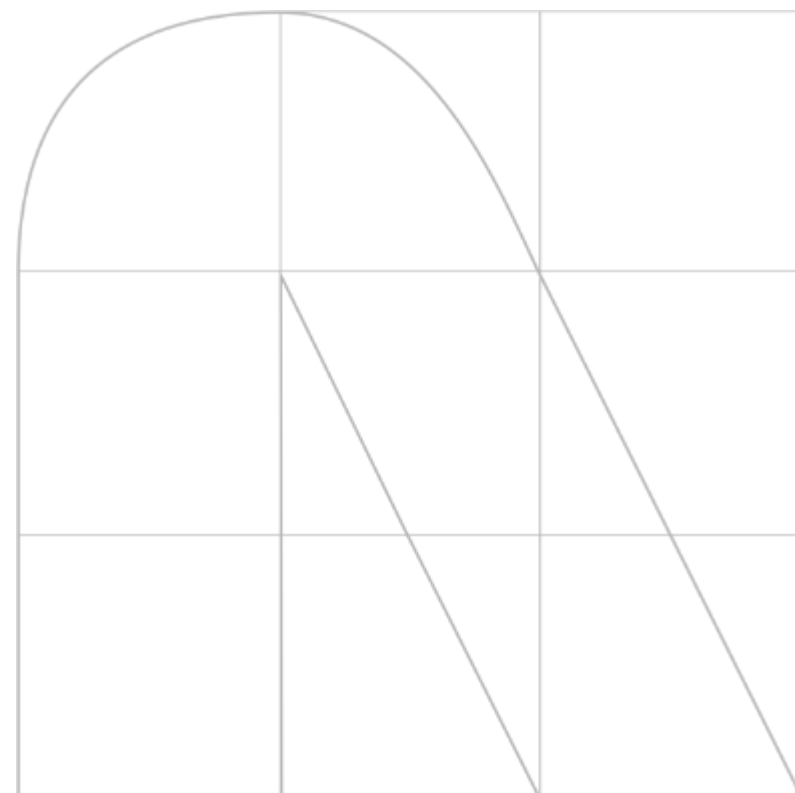
➔ 伴走支援者として地域の介護現場を牽引

自治体

- ワンストップ窓口運営の設置・運営 委託
- 介護テクノロジー補助金

02

テクノロジー活用に向けた6つの手順



導入と活用は大違い！？

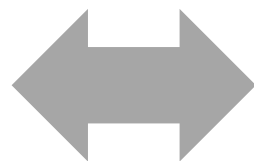
導入



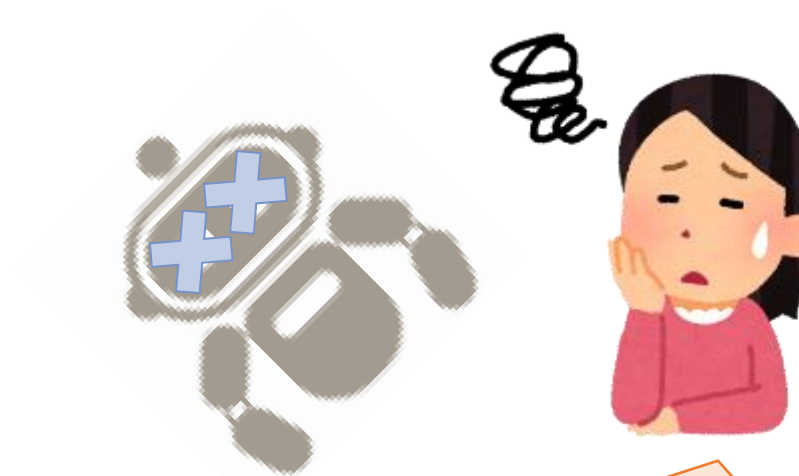
補助金



介護ロボットの普及が進んでいる！



活用



導入したけど、どう使えばよいのか・・・

介護テクノロジーが倉庫に眠るまで

介護ロボットがいらしい。
しかも、補助金が使えらしい！
渡りに船だ！ウチも導入しよう！！

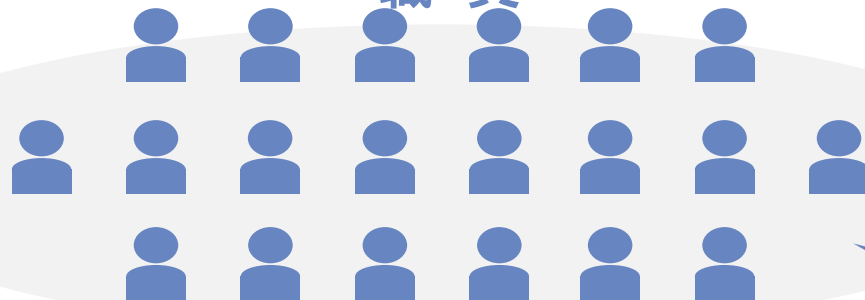
経営層



職員

介護は人の手でやるものだ！
ロボットに介護ができるわけない！

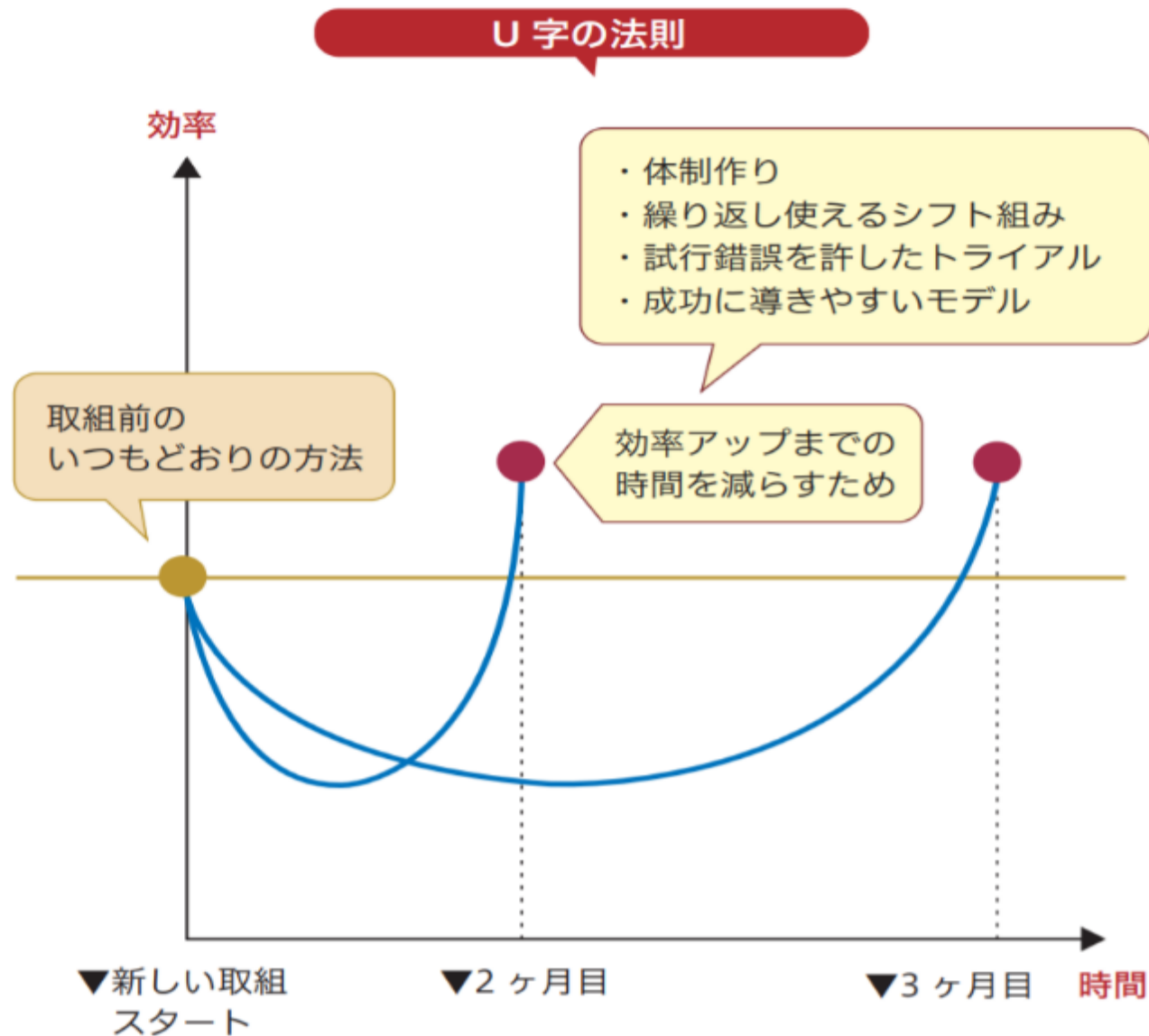
ただでさえ忙しいのに。。。
ロボット？ICT？私には無理！



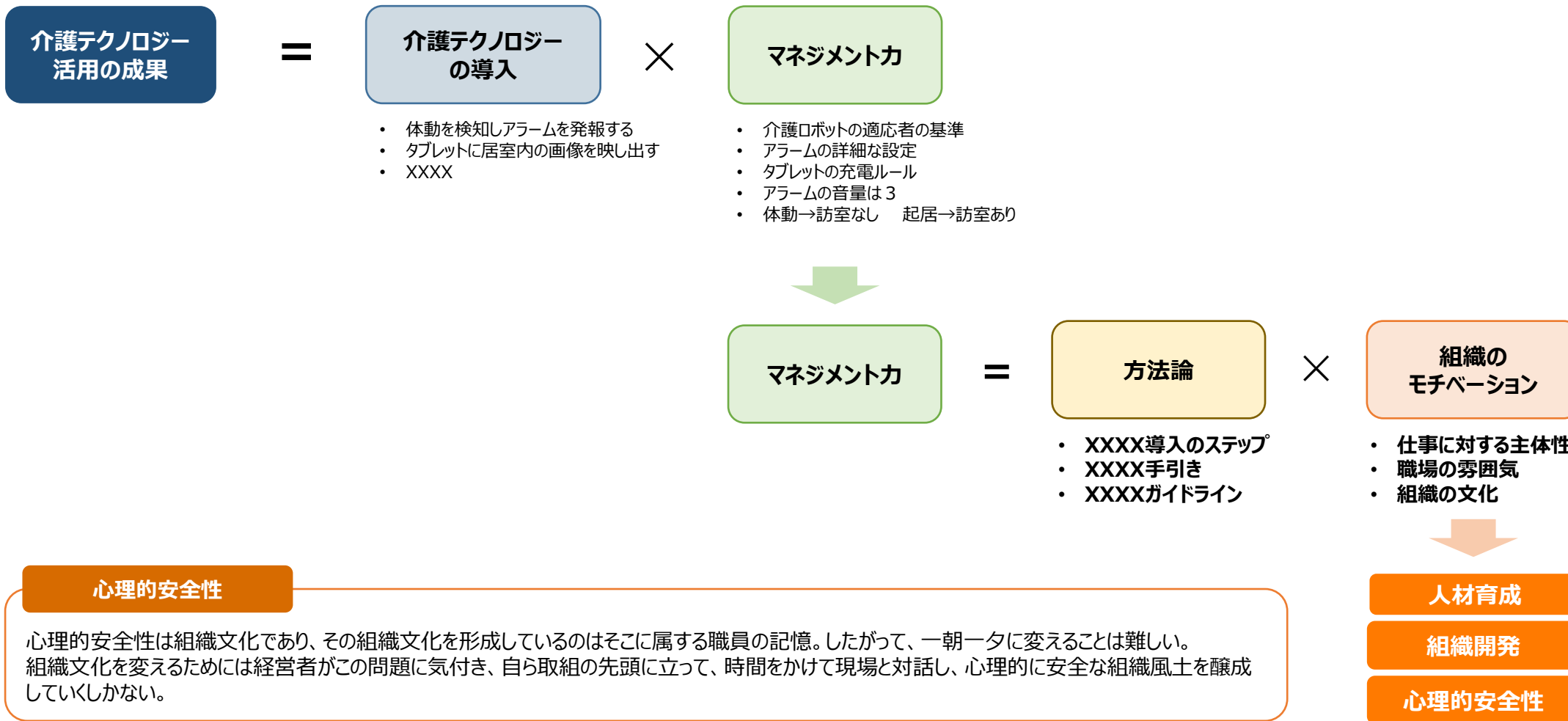
かえって手間が増えた
やっぱり使えない！



「かえって手間が増えた」の正体：U字の法則



生産性向上の取組が組織にもたらすもの



生産性向上 6つの手順

介護サービス事業（施設サービス等）における
生産性向上に関するガイドライン

施設・事業所向け手引き

より良い職場・サービスのために
今日からできること
(業務改善の手引き) パイロット事業令和2年度版

厚生労働省老健局

2 業務改善に向けた改善活動の標準的なステップ

改善活動の手順とポイント

この章では、改善活動の標準的なステップを具体的なツールの活用方法も交えながら、より実践的に紹介します。Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(修正)を繰り返し行うことが、PDCAサイクルを回すことです。何度も繰り返しPDCAサイクルを回すことで、継続的に改善活動に取り組まましょう。是非、改善活動に取り組む際の参考にしてください。

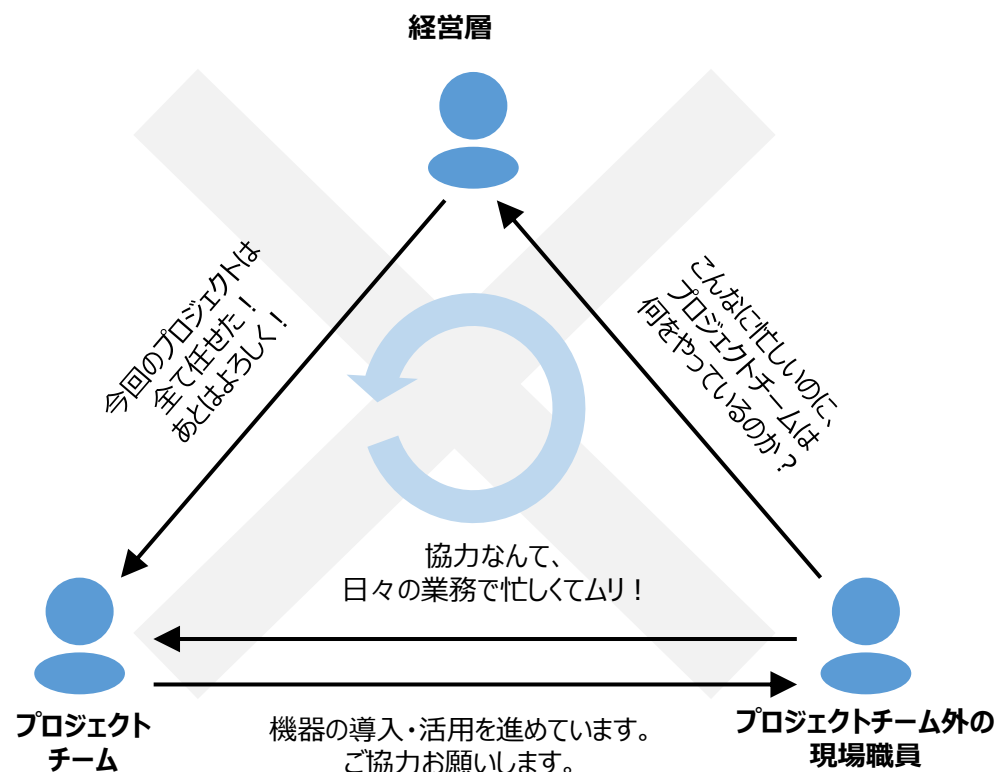
	手順	進めるコツ	使用するツール
P	手順1 改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 改善活動をするプロジェクトチームを立ち上げ、プロジェクトリーダーを決める 経営層から施設全体への取組開始のキックオフ宣言をする 外部の研修会を活用する 	
	手順2 現場の課題を 見える化しよう	<ul style="list-style-type: none"> 「課題把握シート」「気づきシート」から課題を抽出する 「因果関係図」「課題分析シート」により課題を構造化する 「業務時間見える化ツール」により業務を定量的に把握する 	課題把握シート 気づきシート 課題分析シート 業務時間見える化ツール
D	手順3 実行計画を 立てよう	<ul style="list-style-type: none"> 考えられる取組を出し合い課題解決までの道筋を描き、「改善方針シート」で整理する 「進捗管理シート」において成果を測定する指標を定める 	改善方針シート 進捗管理シート
	手順4 改善活動に 取り組もう	<ul style="list-style-type: none"> まずはとにかく取り組み、試行錯誤を繰り返す 小さな改善事例を作り出す 	進捗管理シート
C	手順5 改善活動を 振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"> 「進捗管理シート」により予め定めた成果指標や観察のポイントを確認する 上手くいった点、いかなかった点を整理する 	
A	手順6 実行計画を 練り直そう	<ul style="list-style-type: none"> 上手くいった点、いかなかった点について、分析を加える 他の取組も含め、実行計画に修正を加える 	

PJが上手く進む体制①

手順
1

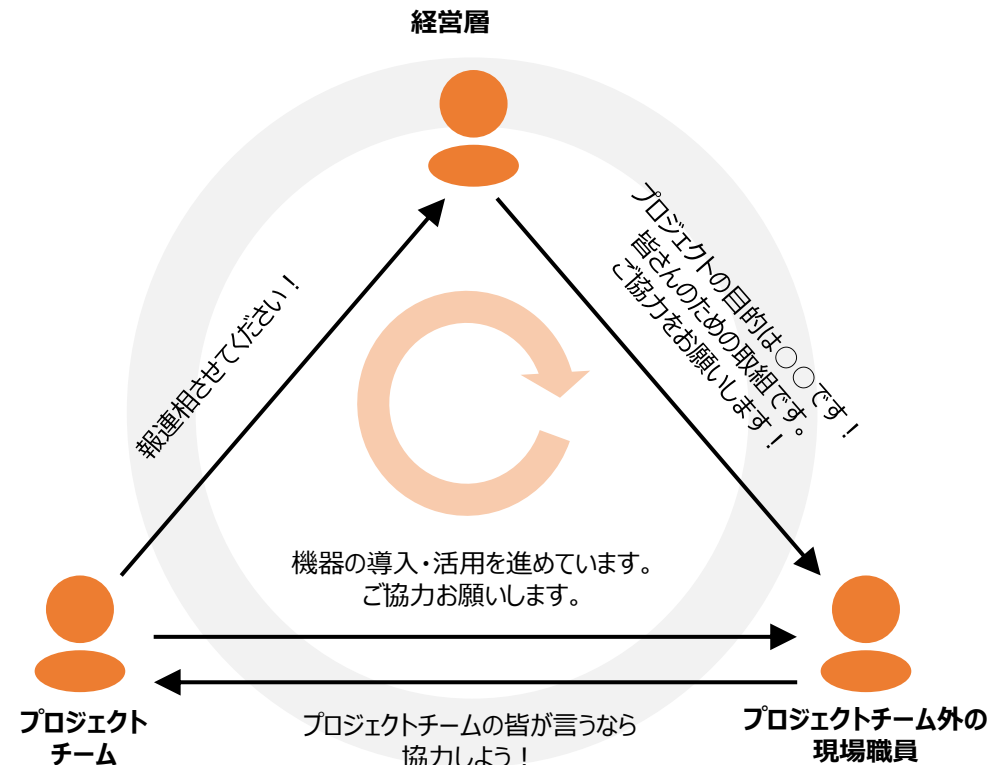
改善活動の準備をしよう

■プロジェクトが破綻する組織



逆時計回りでプレッシャーの連鎖をつくと現場は動かず、
プロジェクトチームが浮いてしまう

■プロジェクトが回る組織



時計回りでプレッシャーの連鎖をつくと現場が動き、
プロジェクトチームが動きやすくなる

■プロジェクトチームの立ち上げ

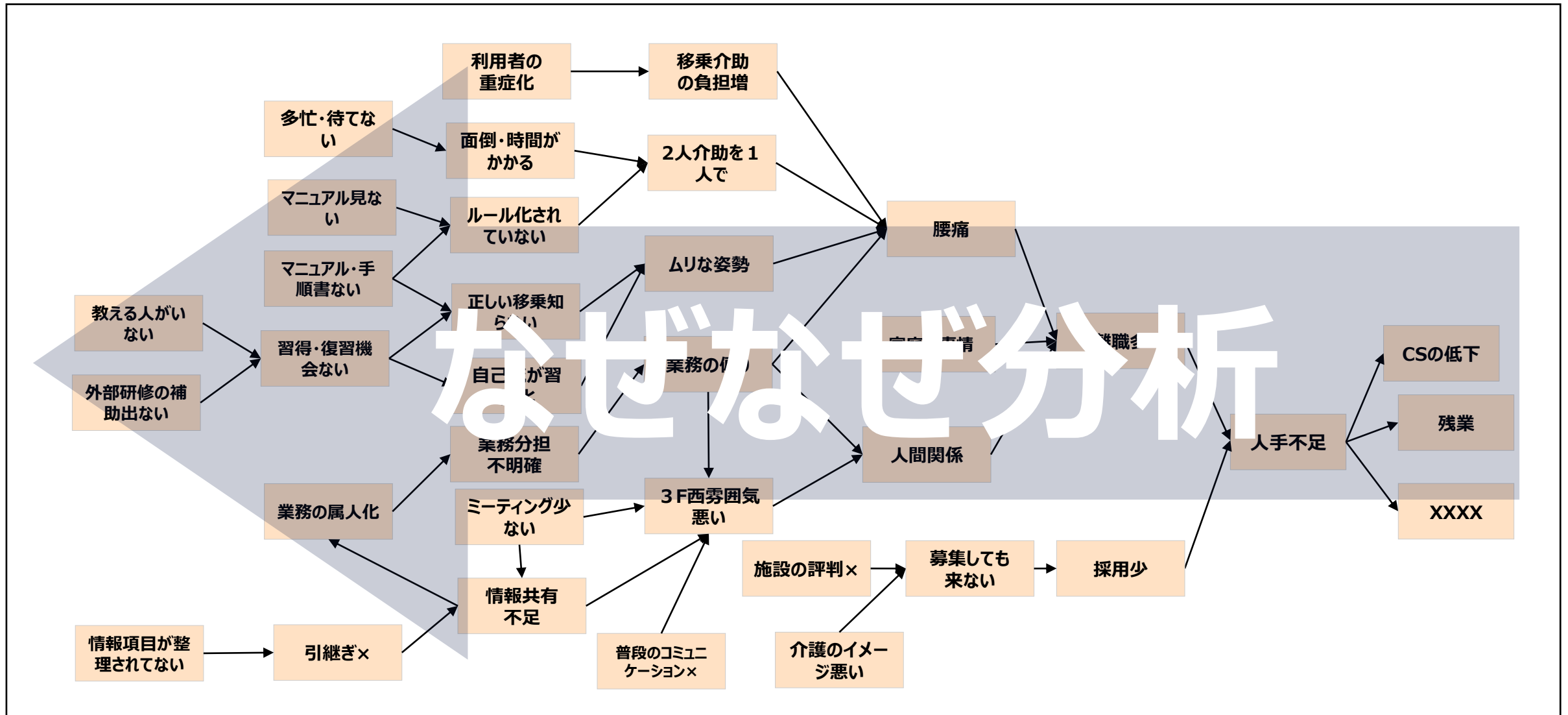
#	役職	役割
1	事務次長	統括責任者
2	看護師長	副統括責任者
3	介護職員①	プロジェクトリーダー
4	Aフロア介護リーダー	マニュアル・運用ルール担当
5	介護職員②	調査担当
6	介護職員③	調査担当
7	リハビリ主任	研修・技術担当
8	リハビリ副主任	リスク検討担当
9	Aフロア主任	リスク検討担当
10	Bフロア主任	リスク検討担当

■キックオフ宣言



✓ プロジェクトリーダーが各階の朝礼時に**キックオフ宣言**

緩やかな因果関係図づくりWS



【事例】課題の見える化

事例

手順
2

現場の課題を見える化しよう

■ 緩やかな因果関係図づくり



出典：令和7年度 大阪府介護生産性向上支援センター 働きやすい職場づくり伴走支援プログラム伴走支援プログラム DAY2の様子

■ 課題解決の道筋づけに関する文章化

「課題解決の道筋づけ支援シート」

深堀原因 転倒リスクの不安から無駄な訪室や巡視、無駄なNC対応が多いこと に対し

介護テクノロジーの種類 カメラ型見守り支援機器 を導入し

好転換された深堀原因 居室内の状況を見える化することで、無駄な巡視やNC対応の回数を減らすことが可能 となり、

原因 転倒リスクの不安 という問題が軽減され

結果 夜間の過度な業務負担 がなくなり、

悪影響 職員の精神的な負担、身体的な負担 の改善が期待できる。

© 2025 NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

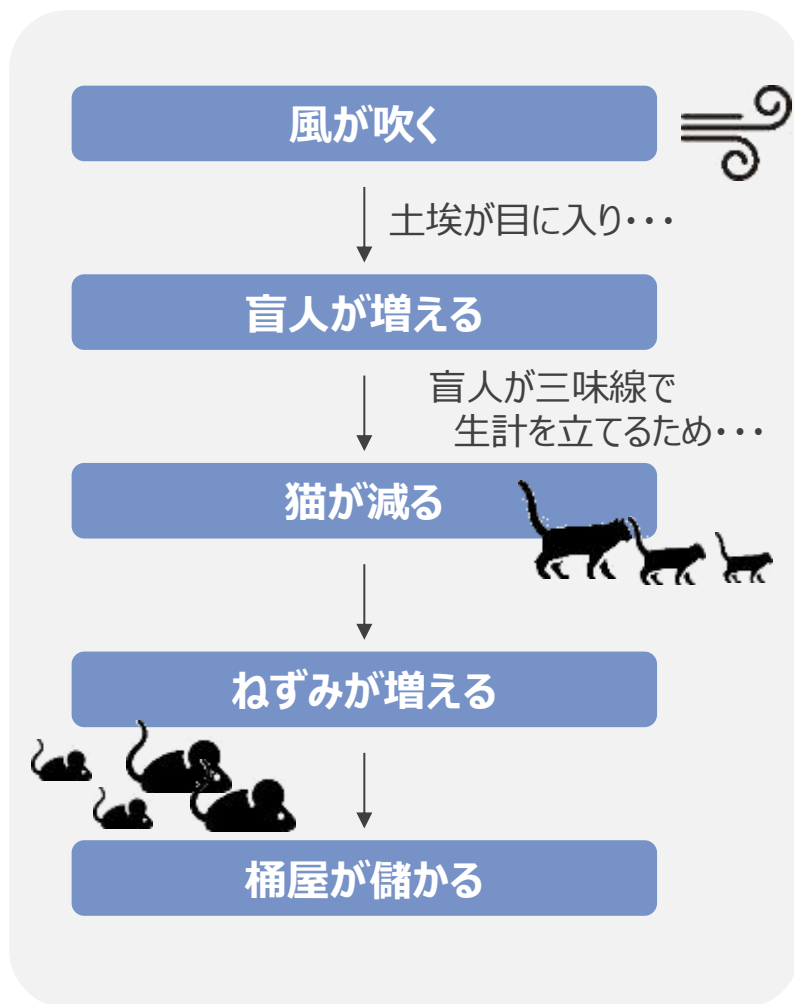
出典：大阪府介護生産性向上支援センター 伴走支援プログラムDAY5（成果報告）大今里ケアホーム 発表資料より引用・一部加工

課題解決の道筋を考える

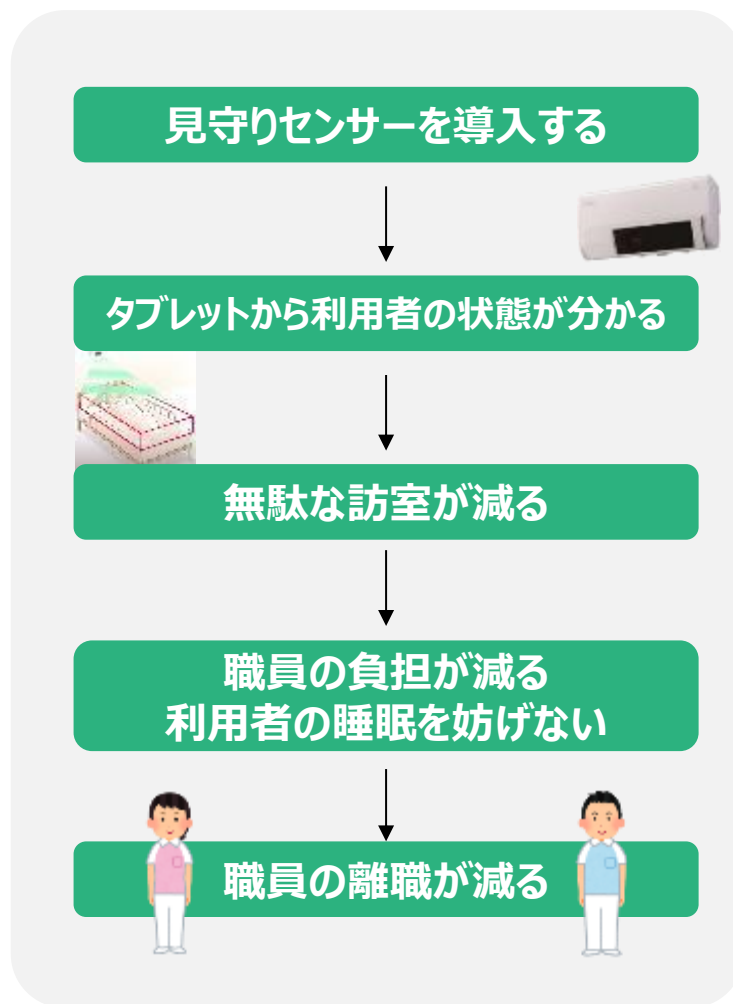
手順
3

実行計画を立てよう

例) 「風が吹けば桶屋が儲かる」道筋



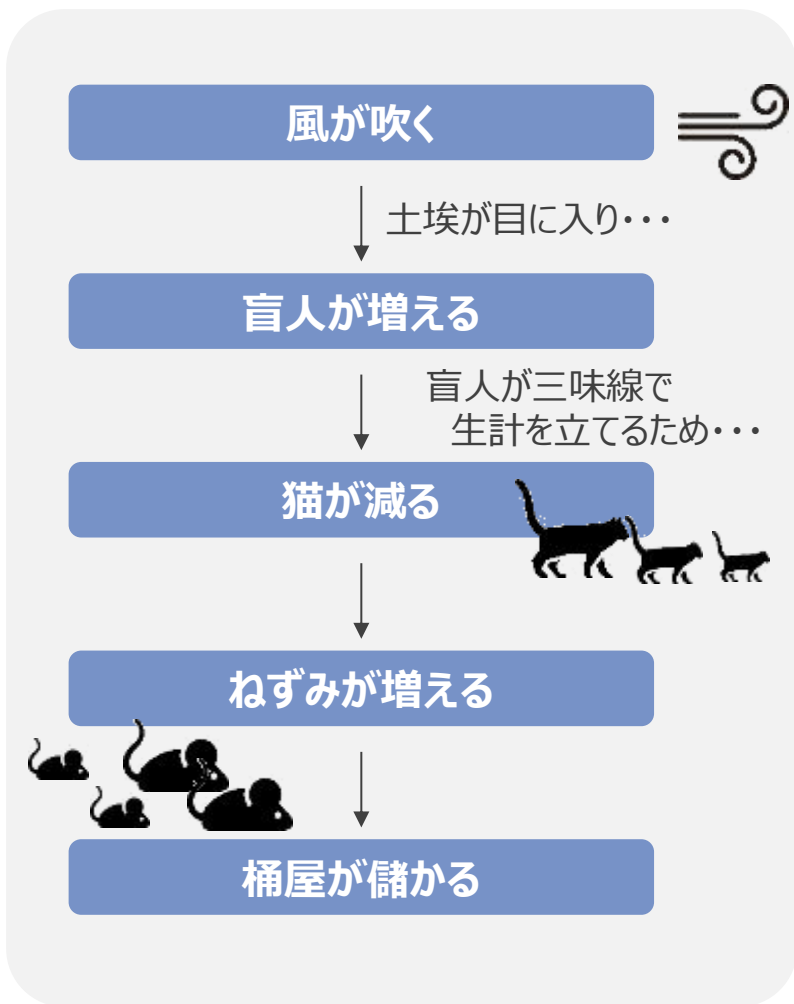
現場課題を解決するための道筋 (例)



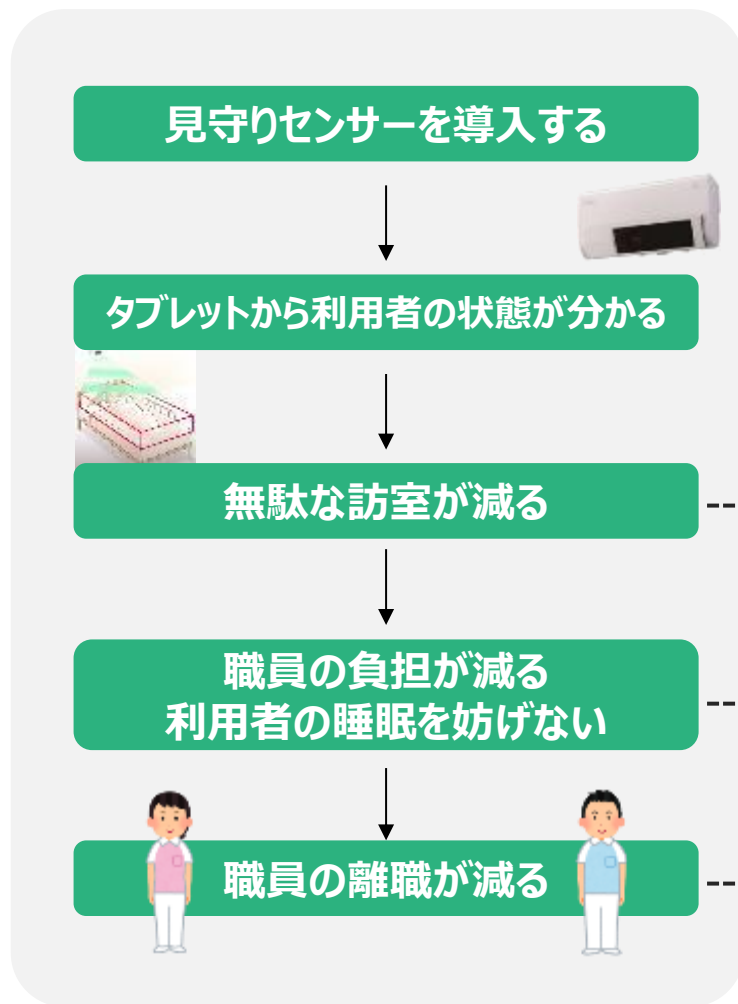
課題解決の道筋を考える

手順 3 実行計画を立てよう

例) 「風が吹けば桶屋が儲かる」道筋



現場課題を解決するための道筋 (例)



評価指標

訪室回数
(90回/人・日 → 65回/人・日)

職員の歩数
(8,000歩 → 5,000歩)

利用者から夜間コール回数
(30回/夜勤帯 → 15回/夜勤帯)

離職率
(20% → 15%)

実行計画の策定

手順
3

実行計画を立てよう

埼玉県「介護ロボット効果実証導入促進事業」

導入計画 記入日: 年 月 日

法人名		施設名	
記入者役職		記入者氏名	

I 介護ロボット導入の目標

II 改善したい課題種類及び対応策

課題	課題の具体的な内容	介護ロボットを活用した対応策

III 導入する介護ロボット

種類	製品名	台数(セット数)

● 進めるコツ

● 課題解決の作戦

→ 課題が解決するまでの道筋を立てる

● 成果の見える化

→ 評価指標を予め決めておく

● 当初計画に固執しない

→ 走りながら柔軟に計画変更



【事例】計画書の作成

■ 計画書作成



■ 計画書の内容（例：見守り支援機器）

Ⅰ 介護テクノロジー導入計画

Ⅰ 本プロジェクトの目的（施設として目指す姿）

介護ロボット（見守り機器を想定）を導入して職員が活用できるようにすることで、職員の身体的・精神的負担を軽減し、効率的で持続的な施設運営を実現する。

Ⅱ 現場課題と解決の道筋（課題の見える化による検討結果）

夜間に利用者の状態が分からず無駄な訪室が多いことに対し、見守りセンサーを導入することにより、タブレットから利用者の状態が分かるようになり、夜間の無駄な訪室という問題が軽減され、職員の肉体的・精神的負担が軽くなり、職員の離職が減ることが期待できる。

Ⅲ 導入する介護ロボット・ICT

種類	製品名	台数(セット数)	合計額※	導入予定場所
見守り	XXXXXX	3台	XXXX千円	3階301・304・307

※は補助金申請前

Ⅳ 介護ロボット・ICT等導入成果を測るKPI（成果指標）

	KPIを設定する文節 （Ⅱ現場課題と解決の道筋から引用してください）	設定したKPI	KPIの測定方法	KPIの測定ピッチ
1	夜間の無駄な訪室という問題が軽減され	訪室回数 90回/人・日→65回/人・日	訪室回数のカウント	毎日
2	職員の肉体的・精神的負担が軽くなり	職員の歩数 5km/夜勤帯→4km/夜勤帯	歩数計	毎日
3	職員の肉体的・精神的負担が軽くなり	夜間勤務時の緊張度合い 5→3	アンケート 5段階評価	1か月に1度
4	職員の離職が減る	離職率 20%→15%	離職者数/全介護職員	半年に1度

※KPIは機器の導入効果を測定するための、定量的・定性的な指標を記載する（例：訪室回数、歩数、職員の精神的負担等）

改善活動開始！・・・の前に思い出そう

手順
4

改善活動に取り組もう

①導入目的の再確認

機器を導入した直後は、機器を使用することに気持ちが向いてしまい、機器を使用すること自体が目的となってしまうがち。目的を再度確認することで、「手段の目的化」を防ぐ。

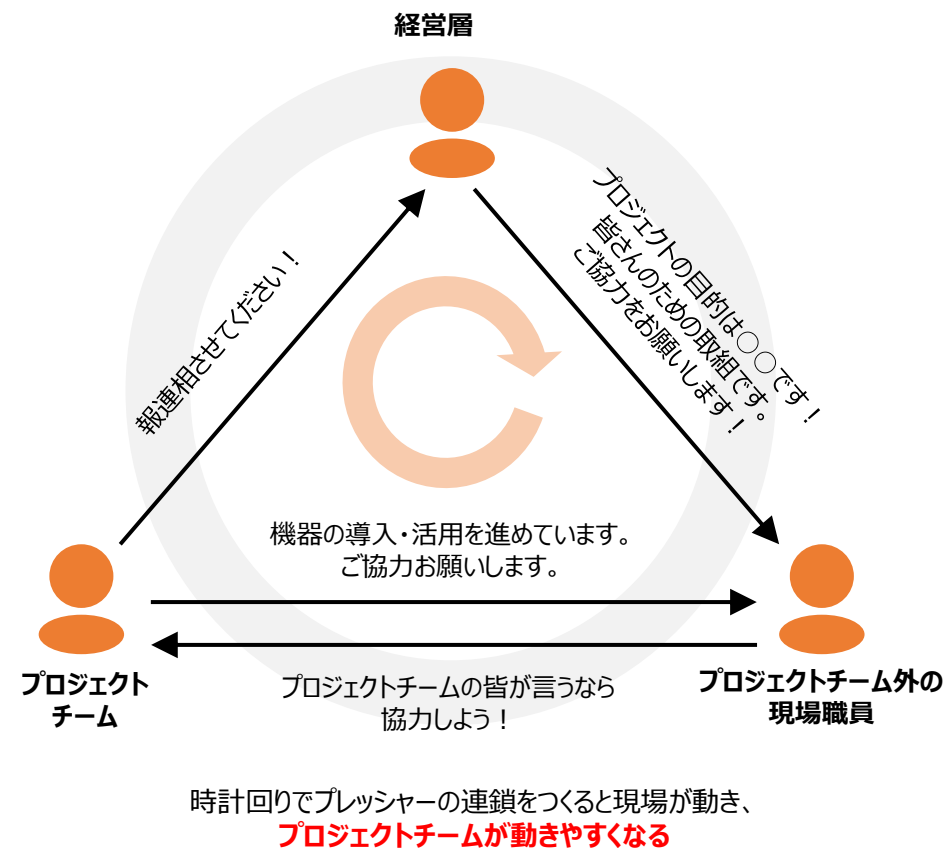
②導入前のデータ収集

機器導入後の成果について、**定量的に振り返る**ために、成果指標に関わる導入前のデータを取得する。

③振り返る日の決定

機器を使い始めても、初めはうまくいかないことが一般的。振り返りで**軌道修正を行わず同じやり方を続けてしまうと、計画の進捗から大きく遅れてしまいます。**

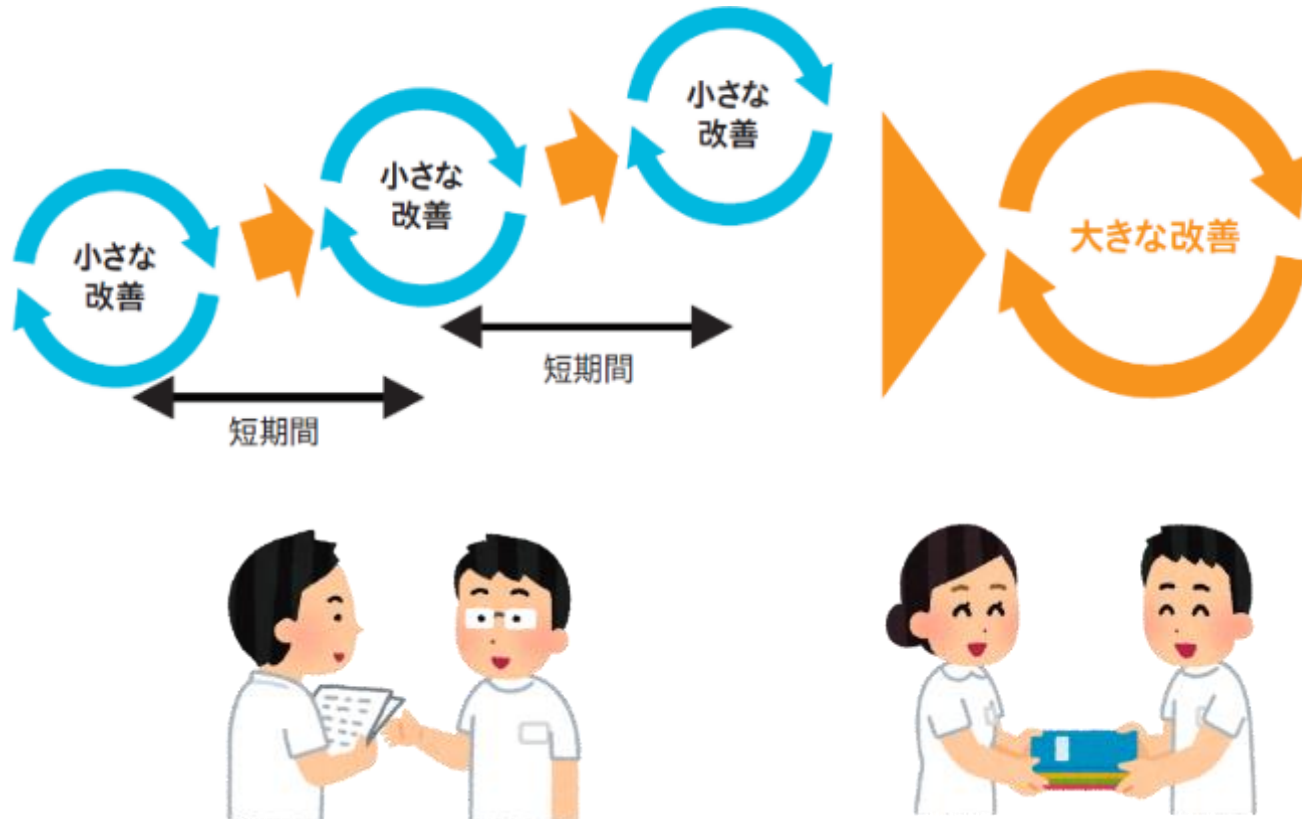
■プロジェクトが回る組織



小さな成功事例

手順
4

改善活動に取り組もう



● 進めるコツ

- **とにかくやってみる！**
上手いかなくて当たり前。
- 走りながら**試行錯誤を繰り返す**ことが強い組織を創る。
- **小さな成功事例**をコツコツ積み上げる。
- 大きな改善は狙って出来るものじゃない！！

“工夫”や“コツ”は手順書・マニュアルへ

手順
4

改善活動に取り組もう

腰の負担を最大30kg軽減！！
慣れれば簡単！誰でも装着30秒！！



マッスルスーツ装着方法♪

- 1 スーツを背負う
- 2 腰ベルト装着「尾てい骨の中心」「しっかり締める」
- 3 胸のベルトを装着「こぶし1個分あける」
- 4 腿パットを装着「大腿部の中心くらい」
- 5 空気を入れる「最大30回くらい」

マッスルスーツの注意点♪

- 1 腿パットの装着は胸と足を反らす
- 2 外す際には次の人のために
 - ・ベルトは緩めておきましょう
 - ・空気を抜いておきましょう

中腰姿勢が楽になるな♪

何か不明点があれば
マッスルメンバーまで
お声かけ下さい!!



← 装着マニュアルの例
文章は最小限にして視覚的にわかるように工夫



介助場面ごとの活用動画を独自に作成

(出典) 平成30年度 介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業

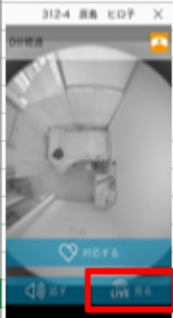
【事例】マニュアル策定、テクノロジーの活用

事例 手順4 改善活動に取り組もう

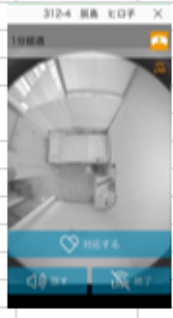
■マニュアルの策定（例：見守り支援機器）

HitomeQ iPhone通知の対応方法



○iPhoneにCare通知がくる。



まずはLIVEをタップ！

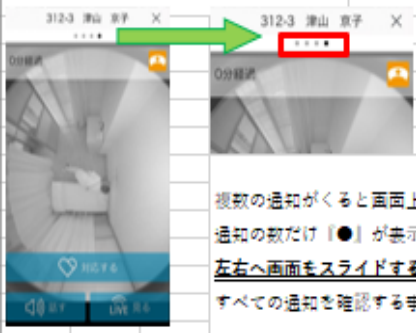


LIVEで状況を確認し訪室を判断

訪室不要な通知	訪室が必要な通知
LIVE画面で状態確認のみ	訪室し対応後
	

Care通知が鳴り、すでに緊急を要する状況の場合
LIVEや話すをタップする前に訪室して下さい。

○複数のCare通知がきた場合。

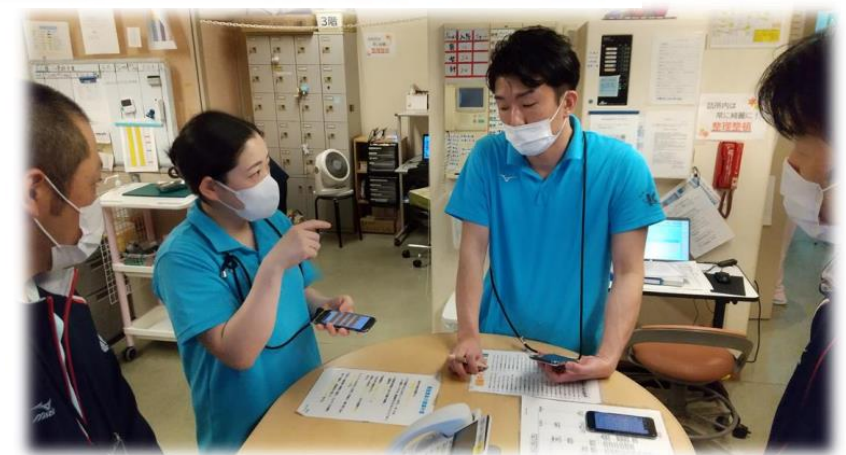


※複数のCare通知がきた場合、繰り返し通知音が鳴ります。
慌てず、すべての通知モスライドで確認したうえで、
優先順位もつけ訪室して下さい。
『対応する』も押しと映像が見れなくなります。

複数の通知がくると画面上部に
通知の数だけ「●」が表示され
左右へ画面をスライドする事で、
すべての通知を確認する事ができます。

状況確認を行い、対応が決定するまでは
『対応する』をタップしないで下さ
い。

■テクノロジーの活用（例：見守り支援機器）



出典：大阪府介護生産性向上支援センター 伴走支援プログラムDAY5（成果報告）大今里ケアホーム 発表資料より引用

「振り返り」の手順

手順
5

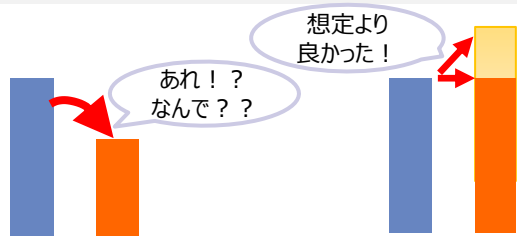
改善活動を振り返ろう

手順
5

① 成果指標に対する効果検証

目標値 vs 実績値

各成果指標を評価し要因を議論する



目標値 vs 実績値

要因を議論、対策検討

目標値 vs 実績値

要因を議論

② 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

差異が生じた要因等の検討



Point

- ①活動を評価し、②結果に基づいて議論する → **“感想”に終始しない!**
- 振り返りの日を予め決め、その日が来たら振り返る成果が出るまで**粘らない**
- 「失敗」や「成功」の**レッテルを張らない**

手順
6

実行計画を練り直そう

改善活動を振り返ろう

振り返り：成果指標に対する効果検証

手順
5

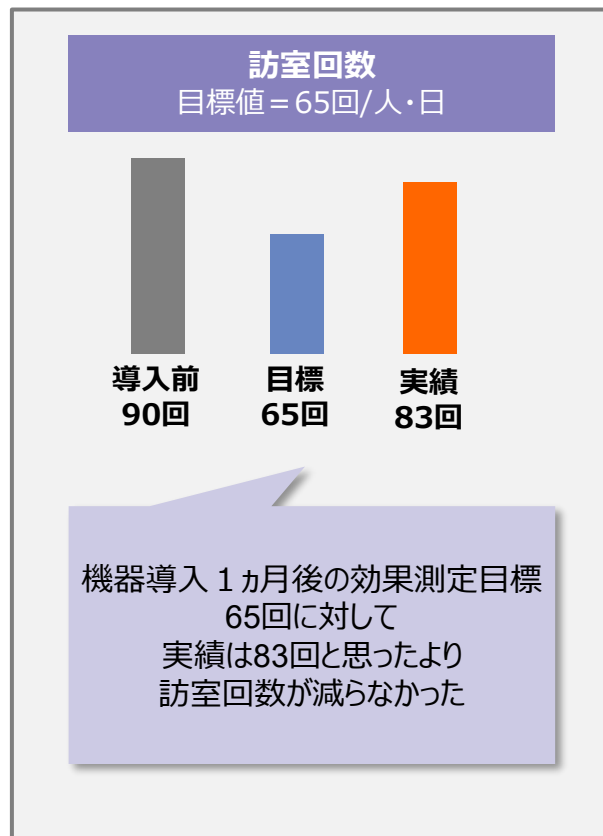
改善活動を振り返ろう

① 成果指標に対する効果検証

目標値 vs 実績値

② 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

差異が生じた要因等の検討



※ 成果指標の差異の分析（例）

最初は設定方法が分からなくて
いつも通り訪室してたよね。
その影響かな？

あとBさんは、
「不安だから訪室してる」
って言ってたよ。

たしかに導入前より減ってるけど、
思ったより減ってないね。
なぜだろう？

そういえば、センサーが鳴った時
利用者の状態がどうだったら
訪室するかは決めていなかったね

Aさんは、映像を確認してから訪
問するから、不必要な訪問は
減って楽になったって言ってたよ

職員によって訪室の基準に
ムラがあるんだね



振り返り：上手くいった点・いかなかった点の整理・分析

① 成果指標に対する効果検証
目標値 vs 実績値

② 上手くいった点、いかなかった点の
整理・分析
差異が生じた要因等の検討

振り返りの視点（例）

- ✓ 利用者への影響
- ✓ 職員のモチベーション
- ✓ 安全面
- ✓ 機器の使用方法

※全体的な振り返り（例）



未だ何人かの職員には、**何のために導入するのが伝わっていない**ね

アラートが鳴らないことがあったよ
コンセン트가抜けていたみたい

アラートが鳴ってから駆けつけたら、**ベッドから落ちそう**になっていたことがあったよ

転倒の原因が画像として残っていたから、**カンファレンス**で**具体的な検討**ができたよ

よく訪室していた利用者が**よく眠れるよう**になっているね

センサーの設定でよくわからない点があるね

【事例】KPIをもとにした振り返り

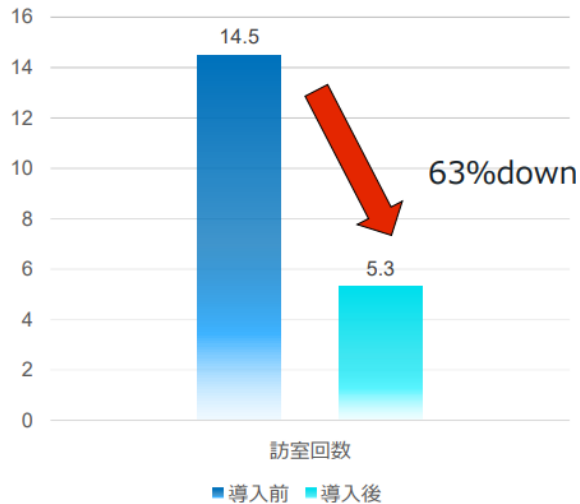
事例

手順
5

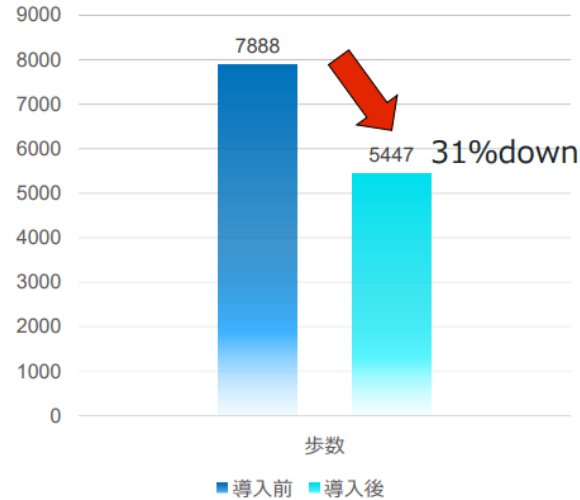
改善活動を振り返ろう

■ KPIの測定結果（例：見守り支援機器）

・訪室回数（2階）



・夜間帯 平均歩数（2階）



■ 測定結果の振り返り（例：見守り支援機器）

- 訪室回数や平均歩数が**減少**
- 訪室しなくても 利用者の状態が把握できる**機能をうまく活用**していることにより、このような結果に繋がった
- 一方、この機能を使わずに訪室する職員も一定数いることは課題であり**改善が必要**

出典：大阪府介護生産性向上支援センター 伴走支援プログラムDAY5（成果報告）泉尾特別養護老人ホーム大正園 発表資料より引用・一部加工

実行計画を練り直す

手順 5
改善活動を振り返ろう

手順 6
実行計画を練り直そう

① 対応策について議論する 要因（課題）に対する解決策の検討

※自分たちだけで考えても分からない事は、メーカーの力も借りましょう



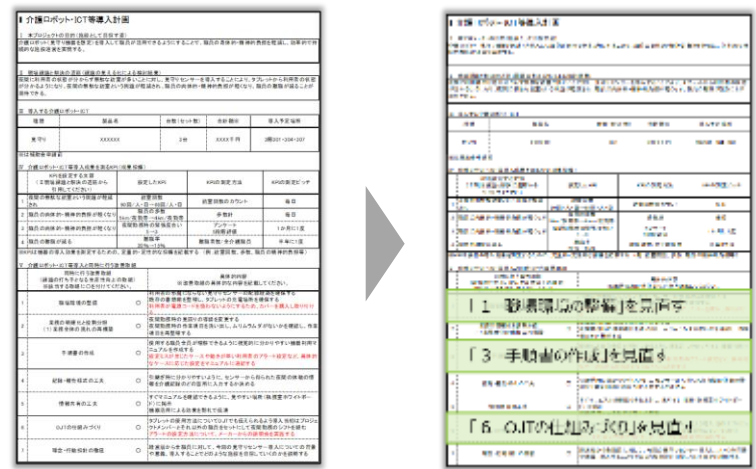
メーカーさんをお願いして
研修会をやってもらおう

一定期間は
定期的に効果測定
したほうがいいね

アラートが発報したときに
訪室する基準を
策定・周知しよう！

しばらく**アンケート**で
機器に対する不安や使いづらい点
を聞いてみよう

② 実行計画を見直す 検討結果を実行計画へ反映



1. 設備の保守・点検計画

項目	実施日	実施場所	実施内容	実施担当者
1	2025/01/15	1号機	点検	田中
2	2025/01/20	2号機	点検	田中

1. 設備の保守・点検計画

- 1. 設備の保守・点検計画
- 2. 設備の保守・点検計画
- 3. 設備の保守・点検計画
- 4. 設備の保守・点検計画
- 5. 設備の保守・点検計画
- 6. 設備の保守・点検計画

- ### Point
- 些細なことでも、上手くいったことは組織全体で**情報共有（横展開）**する
 - 当初の実行計画に固執せず、どんどん**アップデート**する

対応策について議論する

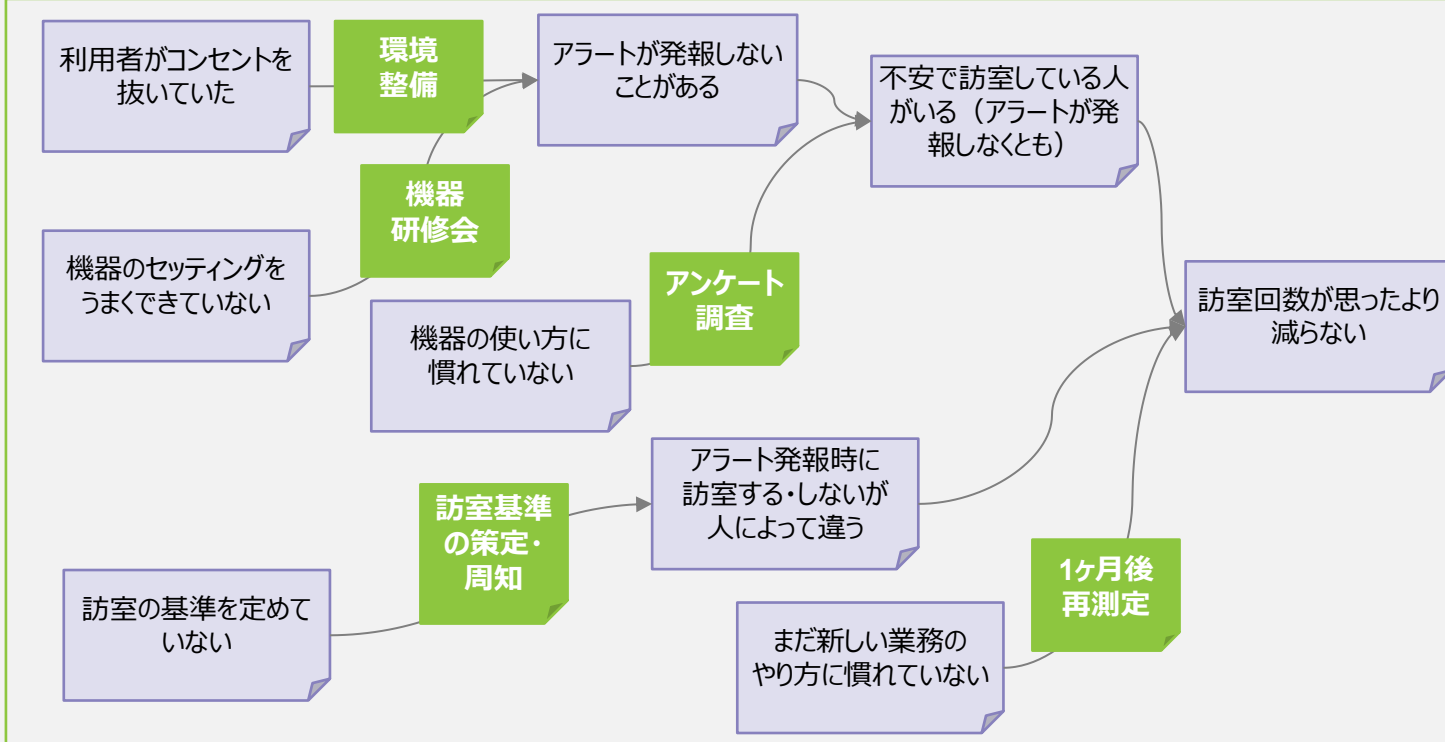
手順
6

実行計画を練り直そう

① 対応策について議論する
要因（課題）に対する打ち手を検討

② 実行計画を見直す
検討結果を実行計画への反映

因果関係図※で打ち手（対応策）を検討



※因果関係図は対応策検討を行う上での方法の1つです。



実行計画を見直す

手順
6

実行計画を練り直そう

① 対応策について議論する
要因（課題）に対する打ち手を検討

② 実行計画を見直す
検討結果を実行計画への反映

※訪室基準の策定・周知（例）

Ⅰ 介護ロボット・ICT等導入計画			
Ⅰ プロジェクトの目的(施設として目指す姿)			
介護ロボット(見守り機器を想定)を導入して職員が活用できるようにすることで、職員の身体的・精神的負担を軽減し、効率的で持続的な施設運営を実現する。			
Ⅱ 現場課題と解決の道筋(課題の見える化による検討結果)			
夜間に利用者の状態が分からず無意味な訪問が多いことに対し、見守りセンサーを導入することにより、タブレットから利用者の状態が分かるようになり、夜間の無駄な訪問という問題が軽減され、職員の肉体的・精神的負担が軽くなり、職員の離職が減ることが期待できる。			
Ⅲ 導入する介護ロボット・ICT			
種類	製品名	台数(セット数)	合計額※
見守り	XXXXXX	3台	XXXX千円
導入予定場所			
3階301・304・307			
※は補助金申請前			
Ⅳ 介護ロボット・ICT等導入成果を測るKPI(成果指標)			
KPIを設定する文節 (Ⅱ現場課題と解決の道筋から引用してください)	設定したKPI	KPIの測定方法	KPIの測定ピッチ
1 夜間の無駄な訪問という問題が軽減され	訪問回数 90回/人・日→65回/人・日	訪問回数のカウント	毎日
2 職員の肉体的・精神的負担が軽くなり	職員の歩数 5km/夜勤番→4km/夜勤番	歩数計	毎日
3 職員の肉体的・精神的負担が軽くなり	夜間勤務時の緊張度合い 5→3	アンケート 5段階評価	1か月に1度
4 職員の離職が減る	離職率 20%→15%	離職者数/全介護職員	半年に1度
※KPIは機器の導入効果を測定するための、定量的・定性的な指標を記載する(例:訪問回数、歩数、職員の精神的負担等)			
Ⅴ 介護ロボット・ICT等導入と同時に改善取組			
同時に行う改善取組 (課題の打ち手となる生産性向上の取組) ※該当する取組に○を付けてください。	具体的内容 ※改善取組の具体的な内容を記載してください。		
1 職場環境の整備	○ 利用者の知識に合わせ見守りセンサーの配線経路を確保する 既存の書類棚を整理し、タブレットの充電場所を確保する 利用者が電源コードを抜かないようにするため、カバーを購入し取り付け		
2 業務の明確化と役割分担	○ 夜間勤務時の見回りの手順を変更する		
Ⅵ 同時に行う改善取組を見直す			
4 記録・報告様式の工夫	○ 引継ぎ時に分かりやすいように、センサーから得られた夜間の体動の情報を介護記録のどの箇所に入力するか決める		
5 情報共有の工夫	○ すぐマニュアルを確認できるように、見やすい場所(執務室ホワイトボード)に掲示 機器活用による効果を朝礼で伝達		
6 OJTの仕組みづくり	○ タブレットの使用方法についてOJTでも伝えられるよう導入当初はプロジェクトメンバーとそれ以外の職員をセットにして夜間勤務のシフトを組む アラートの設定方法について、メーカーからの説明会を実施する		
7 理念・行動指針の徹底	○ 経営層から全職員に対して、今回の見守りセンサー導入についての背景や意義、導入することでどのような施設を目指していくのかを説明する		

Ⅵ 必要なツール・ルールを追記する			
項目	設定条件	アラートが発報した際、利用者がどのような状態の時に訪室するマニュアルの策定	
Ⅶ スケジュールに落とし込む			
時期	機器導入の取組	効果検証に向けた取組	同時に行う改善取組
月 日	・実行体制の構築 ・マニュアルの作成	・夜間から職員に対する取組等の連絡	・見守りセンサーの導入 ・夜間から職員に対する取組等の連絡
月 日	・導入計画づくり	・KPIの検討・策定	・見守りセンサーの導入 ・夜間から職員に対する取組等の連絡
月 日	・現場への説明 ・メーカーとの協働/現地対応	・導入前アンケートの取得 ・アンケートの分析・結果の共有	・見守りセンサーの導入 ・夜間から職員に対する取組等の連絡
月 日	・導入前アンケートの取得	・アンケートの分析・結果の共有	・見守りセンサーの導入 ・夜間から職員に対する取組等の連絡
月 日	・現場への説明 ・メーカーとの協働/現地対応	・導入前アンケートの取得 ・アンケートの分析・結果の共有	・見守りセンサーの導入 ・夜間から職員に対する取組等の連絡
月 日	・現場への説明 ・メーカーとの協働/現地対応	・導入前アンケートの取得 ・アンケートの分析・結果の共有	・見守りセンサーの導入 ・夜間から職員に対する取組等の連絡
月 日	・現場への説明 ・メーカーとの協働/現地対応	・導入前アンケートの取得 ・アンケートの分析・結果の共有	・見守りセンサーの導入 ・夜間から職員に対する取組等の連絡
月 日	・現場への説明 ・メーカーとの協働/現地対応	・導入前アンケートの取得 ・アンケートの分析・結果の共有	・見守りセンサーの導入 ・夜間から職員に対する取組等の連絡
月 日	・現場への説明 ・メーカーとの協働/現地対応	・導入前アンケートの取得 ・アンケートの分析・結果の共有	・見守りセンサーの導入 ・夜間から職員に対する取組等の連絡

Ⅴ 次世代介護機器導入と同時に改善取組

3 手順書の作成	○ 使用する職員全員が理解できるように視覚的に分かりやすい機器利用マニュアルを作成する ○ 機器の適応に関する基準や訪室の基準など、具体的なケースに応じた設定をマニュアルに追記する
----------	---

Ⅵ 必要なツール・ルール等の整備

作成・策定時期	ツール・ルール名	概要
～月 日	訪室基準	・アラートが発報した際、訪室する利用者の状態を記載

Ⅶ スケジュール

時期	機器導入の取組	効果検証に向けた取組	同時に行う改善取組	ツール・ルール
月 日 ～ 月 日	・小さな成功事例の共有...		・朝礼で伝達	・訪室基準

【事例】計画・取組の見直し

■ 計画・取組の見直し等に関する意見交換



■ 見直し内容（例：見守り支援機器）

①想定と異なった点	②要因	③見直し内容
<ul style="list-style-type: none">機器の電源が切れていた	<ul style="list-style-type: none">利用者様が電源コードを抜いていた	<ul style="list-style-type: none">利用者が電源コードを抜いてしまわないように、ベッドやタンスなどで電源コードを隠す
<ul style="list-style-type: none">画面の不具合（画面が真っ黒になる）	<ul style="list-style-type: none">太陽光で映らなかった	<ul style="list-style-type: none">カメラを日光に影響されにくい位置に移動する
<ul style="list-style-type: none">音量が下げられていたアプリが立ち上がっていなかった	<ul style="list-style-type: none">職員が夜間に音量を下げたままにしていた画面の確認不足	<ul style="list-style-type: none">タブレットの音量が下がっていないか、アプリが消えていないかを2時間毎に確認

出典：大阪府介護生産性向上支援センター 伴走支援プログラムDAY 5（成果報告）介護老人保健施設アイリス堺正風 発表資料より引用・一部加工

改善活動に終わりはない

➤ 準備 8 割！

➤ 業務改善にゴールはない！

